

外国語学部における「学び」と「グローバル人材」



巻頭言

大内 一*

The learning and globally-minded human resources
at the School of Foreign Studies

Key Words : foreign studies, multi-lingual, globally-minded human resources

縁があって外国語学部が『生産と技術』の編集に関わるようになって久しいですが、本誌読者の方々が、外国語学部について十分に理解して頂いているかと言えば、必ずしもそうではないと思いますので、外国語部部の教育等について一言二言述べさせていただきます。

外国語部部のルーツは、大阪の女性実業家の林蝶子女史からの「大阪に国際人を育てる学校を」との思いによる寄付を資金に、1921年に上本町八丁目に創設された官立の大阪外国語学校にあります。同校は1944年に大阪外事専門学校と改称し、1949年に国立大阪外国語大学へと発展を遂げました。1979年には大阪市内から箕面市粟生間谷へと移転して組織を拡充し、2007年10月に大阪大学と統合して現在の姿になりました。

外国語部部は言語教育を行う場ではありますが、巷に見られる単に外国語会話を教授する語学学校ではありません。英語名のSchool of Foreign Studiesからも容易に理解できるように、「外国の言語及びそれを基底とする文化一般について理論及び実際にわたって教授研究し、国際的な活動をするために必要な広い知識及び高い教養を与え、言語を通じて外国に関する深い理解を有する有為な人材を養成すること」を教育理念とし、大阪外国語学校建学以来、一貫して「グローバル人材」の育成を実践してきた

部局です。

外国語部部での「学び」は、教授される言語をコミュニケーションのための単なるツールとして学ぶのではなく、専攻言語とそれが話される地域の文化や社会を多角的な視野から総合的に理解することを目的としており、言語研究と人文社会分野の地域研究を融合させたマルチディシプリナリな学問、言わば「言語地域学」あるいは「語圏学」と表現し得るものです。各専攻においては、会話や作文、読解といった専攻語習得に特化した学習をしっかりと行ったうえで、それと平行して、専攻語圏の個別言語学、文学、歴史学あるいは社会学といった3分野（規模の大きな専攻は政治・経済を加えた4分野）を学びの「柱」として設定し、専攻言語を介してそれらを有機的に関連させた人文系語圏教育を通して、その言語圏に関する深い知識を備えた文系ジェネラリストの育成を行っています。さらに、言語の背景にあるその地域の歴史や社会、人々のもつ価値観等を理解したうえで、その地域の文化を固定観念に囚われることなく相対化して受け入れる能力を身につけることも目指しています。すなわち、優れた言語運用能力と世界諸地域に関する深い知識と異文化理解力の三者を兼ね備えてはじめて外国語部部が目指すグローバル人材となり得るのです。

世間では、様々な観点で「国際的に活躍できる人材」を広くグローバル人材と表現しています。理系の世界でも、優れた語学力を駆使して研究や仕事上でグローバルに活躍される人材が数多くおられます。しかし、これとは別に、例えば、日本企業が海外にプラント等を建設し現地の人材を雇用するような場面では、現地の言語や社会や文化に精通した日本人スタッフが必ず必要となり、その時がまさに外国語部部の言う「グローバル人材」の出番かと思えます。それは、現地における理系と文系のタイアップがそ



* Hajime OUCHI

1956年11月生まれ
大阪外国語大学大学院外国語学研究所
修士課程修了（1983年）
現在、大阪大学外国語部部長
文学修士 スペイン中世史
TEL : 072-730-5358
FAX : 072-730-5358
E-mail : ouchi@lang.osaka-u.ac.jp

れぞれの専門性が高ければ高いほど不可避であるからにほかなりません。

企業におけるこのような補完的關係は、大学内の共同研究プロジェクト等でも十分に生じる可能性

があると考えています。外国語学部の「学び」は実学であり、理系との共通点も多々あると思われます。本誌読者の方々には、外国語学部についてのご理解をいっそう深めて頂くよう切に希望します。

